

ドクター・ハザマの



バイタルサイン塾 40

相反するものを自身の中に共存させる

ファルメディコ株式会社
 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座
 医師・医学博士 狭間 研至

「好きだけど、嫌い」 アンビバレントな感覚を意識する

私が個人的に意識している感覚の一つに、アンビバレントな感覚があります。

アンビバレント (ambivalent) とは、ある物事や人に対して、相反する感情や態度を同時に持ったり示したりすることです。主には心理学や精神分析で使われる言葉だそうで、なにやら難しそうではありますが、要するに「好きだけど、嫌い」のような私たちが日常生活の中で良く経験する、ちょっと“フクザツ”な感情や態度のことです。

学問の分野で取り上げられるぐらいなので、私たち人間に、ある程度共通して見られる現象だと思うのですが、ここ数年来の薬局や薬剤師の変革を俯瞰してみたときに、この相反するものを自分の中に共存させておくイメージを持つことを意識しておく方が良いのではないかと感じています。

バイタルサインとの良好な位置関係は 「大切だけど、どうでもいい」

薬剤師がバイタルサインについて学ぶ際に、その手技の正確さや習熟度というものは重要です。きちんとした計り方を身に付けていなければ、いざ、それを活用しようと思ってもできません。しかし、薬剤師がなぜ、今、バイタルサインかという文脈や、それらの手技を通じて得られたデータが、その患者さんの治療の中で、どのような意味合いがあるかを薬学的専門性に基づき解釈して医療チームに環流させ、より良い薬物

治療につなげるという意義を理解する方が、本当は(!?) 大事なはずです。

例えば血圧測定。アネロイド血圧計、水銀血圧計を用いて、聴診法、触診法で測定するという手技は、正しくできないと値の信頼性や患者さんへの負担という観点で問題が生じます。

しかし、それらで得られたデータを、自らが調剤した薬剤の効果や副作用と連動して考え、アセスメントできないと何の意味もありません。ましてや、血圧は自動血圧計で、患者さんやご家族、ヘルパーさんも測定できる時代ではなおさらです。でも、血圧測定の手技を正しく身に付け、状況に応じて触診法も駆使して素早く測定できるようにしておくことは重要です。

大切ですけど、どうだっていい。この微妙かつ複雑な感覚を持っておくと、薬剤師はバイタルサインと良い位置関係を保てるのではないかと思います。

バイタルサインは単なるツール 使いこなして医療の目的を実現

そもそも、医療においてバイタルサインは単なるツールです。そのツールを使いこなして、医療の目的である患者の疾病治療や健康回復を実現していくことが重要です。しかし、そのツールを正しく使う手技を身に付けておくことも大切です。でも、機械を活用すれば、どうだっていいのです。

自分の心の中で、このように大きく価値観が振れているのを自覚しながら、そのアンビバレントな感覚を楽しむ余裕を持つことが、薬剤師がバイタルサインというテーマとつきあうコツではないかと思います。